踏み出したコンサルとの意思疎通

三建だより
発行・編集
一般社団法人 三島建設業協会
さんけん 広報委員会
三島市玉川250の2
電話〈055〉975-0332
ホームページ https://www.misimakenkyo.jp
発行日　毎月1日

三建・静測協東部支部・沼土の3団体が意見交換会を実施

三島建設業協会（佐野　静岡県測量設計業協会東茂樹会長）は2月12日、部支部（齋秀之支部長）、静岡県沼津土木事務所（望月靖之所長）との意見交換会を協会大会議室で開き、佐野会長ら8人、静岡県測量設計業協会東部支部からは齋支部長ら5人、沼津土木事務所からは望月所長ら6人が参加した。

佐野会長は「発注者・施工者・設計業者が集まり意見交換をする場は、県内では東部地区が先陣を切ることとなった。それぞれの立場で率直な意見を共有してほしい」と呼び掛けた。

望月所長は、「AIやDXなど技術が日に日に進歩しているが、それを活用する人間が日頃から連携をしていくことが重要だ」と今回の意見交換会の意義を強調した。

齋支部長は「人材不足など共通の課題があると思う。今回の意見交換会で出た意見を参考に生かしていきたい」と意気込んだ。

意見交換では、インフラDXの推進、設計と現場の乖離防止などの「技術テーマ」、災害対応時の課題と取組、総合連携の模索などの「災害テーマ」、人材確保、若手育成などの「担い手テーマ」について、各団体の代表が発表し、共通の課題への対策などについて出席者が意見を出し合った。また、来年度も意見交換会を実施することが確認された。

静かに咲く桜が、静寂な社の時を春へと移す
（三嶋大社　撮影　村上益男氏）

第5回委員会開く

みらい創造特委

三島建設業協会みらい創造特別委員会（土屋昭委員長）は2月6日、令和7年度第5回委員会を協会中会議室で開き、東部地区の県土木事務所との「受発注者間パートナーシップ意見交換会」の開催に向けて、対話の内容を協議した。静岡県沼津土木事務所と熱海土木事務所の二つの事務所で開催を予定しており、参加者を技術職、事務職、幹部の3部会に分けた分科会方式により対話を実施する。

土屋委員長は、「同じインフラを支える仲間という認識を共有し、受発注者間の相互理解と信頼関係を育んでいきたい」と意義を強調した。また、20年後の災害対応を担うのは今の若手世代であることに触れ、「時間的制約や対面機会の減少により、次世代の信頼形成の機会が失われつつある。災害時に『顔が見える関係』を継続して築いていくことが重要だ」との考えを示した。

議事では意見交換会に出席するメンバーとテーマを選定した。テーマの案として「若手の人材不足」や「週休2日制工事の影響について」などが上げられていた。

なお、意見交換会は、沼津土木事務所で2月19日、熱海土木事務所で2月26日に実施する。

見学会の会場など協議

建築委

三島建設業協会建築委員会（森勲委員長）は2月18日、令和7年度第1回建築委員会を協会中会議室で開き、令和8年度事業計画などについて協議した。

冒頭、森委員長があいさつし、「例年実施している建築物件の見学会を次年度も実施する。候補の現場は複数あるが、見学会を中心に事業計画を協議したい」と話した。

議事では、6月に三島駅前市街地再開発・東街区の現場を視察する案が出た他、事業計画案として▽新技術に関する情報交換▽工事創造に関する事業―の実施などを決めた。

また、協会会館の修繕について、分電盤の取り換え工事の方針を協議した他、ブレーカーの取り換え工事の完了が報告された。

第4回委員会を開催

土木・災害対策委員会

三島建設業協会土木・災害対策委員会（土屋龍太郎委員長）は2月19日、静岡県土木施工管理技士会三島地区（西村保徳地区長）と合同で第4回委員会を開催し、令和8年度の事業計画などについて協議した。

土屋委員長は、「次年度には委員会編成が再編されるターニングポイントを迎える。次世代会員との連携強化など、より組織力を強固なものにするための活動を推進していく必要がある」と呼び掛けた。

次年度の主要事業として、▽技術支援協定への対応▽三建主導による地域防災力の強化▽会員企業の防災力強化▽家畜伝染病を含む災害応急対策協定への対応―などを決めた。

人脈ズームアップ

静岡県沼津土木事務所
技監兼下水道課長
有田（ありた）　卓司（たくじ）氏

【略歴】　1993年静岡県入庁、2014年沼津土木事務所工事2課2班副班長、16年企業局水道企画課企画調査班長、21年企業局水道企画課課長代理、24年企業局東部事務所柿田川支所技監兼支所長を経て25年4月より現職

土木系の大学卒業後、地元に戻ってきたいことと静岡県に愛着があったことが県職になった契機になった。最初の赴任地は御前崎土木事務所維持調査課。道路修繕や河川維持、年間業務委託などを担当した。沼津土木には10年ぶりの交通基盤部への異動で、多忙で大変な印象がある3度目の赴任。「とにかくがんばろう」という気持ちだった。

思い出の工事は、沼津土木に在籍したとき、狩野川流域下水道事業でシールド工事に携わったことを挙げる。また、国道136号バイパス江間地区の道路改良事業に関わったことも挙げる。東京オリンピック開催までに開通させるため供用開始を前倒しして、用地交渉をはじめ地質、設計など多岐にわたる調査検討を進める必要があった。そのため、課長や班長を中心に業者と2週間ごとに打ち合わせをしたり、工程管理や課題問題点の抽出など、その解決に向けて班全体で取り組んだりしたことは印象深い。いまでも江間地区バイパスを通るときは感慨を覚える。

現場代理人と対話を重ねて相互理解

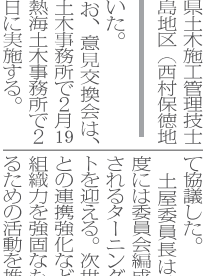
「現場ファースト」でより良い関係を

部下に対して注意しているとは、自分がわからないことや判断に迷ったとき、上司や先輩、同僚に相談することは大切だが、「自分はこう考えたがどうか、こうしたいがどうかと自分の考え方や意見を持って相談してほしい」と訴える。「その上で人の意見を仰ぎながら、その答えや方針を導き出すことが大切」と説く。昔、上司にこのことをアドバイスされてから自分も意識して対応してきたことであり、立場が代わって相談を受けたときは、あなたはどうしたい、どう考えている？」と聞く対応を心掛ける。

狩野川流域下水道事業は、供用開始してから東部処理区は40年、西部処理区は31年経過している。定期的な日常点検や修繕に加えてストックマネジメントによる計画的な施設更新により、適切な維持管理と各施設の能力を確保するように努める。昨年に埼玉県八潮市で発生した下水道管の破損による道路陥没事故により、下水道管路の維持管理の重要性が改めて認識された。今後、国から点検の新指標が示されたら県として適正に対応する。

三建管内の建設業者の皆さんには、日ごろから災害や事故発生時の応急・復旧対応に感謝している。沼津土木では監督員らが現場に足を運び、現場代理人さんと対話を重ねることで工事への相互理解を深め、信頼関係を構築する「現場ファースト」を掲げている。「引き続き皆さんとより良い関係を構築していきたい」と話す。

休日はジム通いや庭の手入れで過ごす。お子さんは独立し奥さんと二人暮らし。静岡市駿河区在住。69年9月生まれ、56歳。



吊し雛顔ひの糸の解けぬやう　日差子

雨音を朝の調べに桃花節　日差子

満開の古刹の梅花垣根越え　マサ子

往きに見し一駅歩き初桜　礼子

現世や法話の後の桜餅　和子

島影を数ふる岬風光る　文代

箱書に夫の太文字雛をさめ　藍子

味噌の香の厨口より春の　文子

富士なのはなを生けて留守で　ツトム

す村交番外ばかり挑むる猫や菜種梅雨　冴栄

静かなる継承

静岡県熱海土木事務所長
西原　宏昌

私が盆栽を引き継ぐことになったのは、父が平成十二年に他界したことがきっかけでした。父の趣味が盆栽であり、残された盆栽の多くは松でした。突然その管理を担うことになった当時の私は、盆栽に特別な関心があったわけではなく、「引き継いだ以上、枯らすわけにはいかない」という思いで向き合い始めたのが正直なところです。

盆栽は、鉢という限られた空間の中に自然の景色や時間の流れを表現する、日本独自の文化です。その歴史は古く、中国から伝わった鉢植え文化が日本で発展し、樹木の姿に四季や風雪を映し出す芸術として受け継がれてきました。中でも松の盆栽は、常緑であることから長寿や不変の象徴とされ、日本人の美意識と深く結びついています。厳しい環境にも耐え、年を重ねるごとに風格を増していく姿は、静かでありながら確かな存在感を放っています。

五葉松

黒松

一方で、その姿を保ち続けるためには、相応の知識と手間が必要です。引き継いだ当初の私は経験もなく、まずは植木屋さんにお願いして、剪定や管理の基本を一から教えていただきました。水やり一つをとっても、季節や天候、樹の状態によって加減が異なります。春から夏にかけては芽つみ、秋冬にはもみあげや樹勢を見極めながらの剪定が欠かせません。現在では、日常の水やりや季節ごとの手入れは自ら行っていますが、判断に迷う場面はいまだに少なくありません。

特に松の盆栽は扱いが難しく、樹勢の調整を誤ると立て直しに長い時間を要します。一度の判断ミスが、その後の姿に大きく影響することもあり、素人には思い切った剪定がなかなかできません。そのため、どうしても現状を維持することを優先し、「守り」に徹した管理になりがちです。この現状維持の姿勢が、新たな形を生み出す楽しみを遠ざけ、引き継いでから約二十五年が経った今も、盆栽を「趣味」と呼べない理由なのかもしれません。それでも、鉢の前に立ち、樹の状態を静かに眺めている時間には、日常とは異なる落ち着きを感じることがあります。

最近では、日本庭園などを訪れると、自然と樹木の剪定の仕方や枝振り、全体の構成に目が向くようになりました。以前であれば何気なく通り過ぎていた景色の中に、長い年月をかけて整えられてきた形の意味や、自然と人の手との程よい距離感を感じることがあります。盆栽と向き合い続けてきた経験が、知らず知らずのうちに、自分の物の見方を少し変えてきたのだと感じています。

土木の仕事もまた、長い時間をかけて地域を守り育てていく営みです。道路や河川、港湾などの整備や維持管理は、決して目立つものではありませんが、その積み重ねが地域の安全と安心を支えています。急激な変化を求めるのではなく、現状を的確に把握し、必要な手を適切な時期に加えていく姿勢は、盆栽の管理と通じるものがあります。限られた条件の中で良好な状態を保ち、次の世代へ引き継いでいくことは、私たちの仕事の基本でもあります。

これまで義務感から続けてきた盆栽の手入れが、いつか自然な興味へと変わり、心から向き合える時間になる日が来ればと思います。鉢の中の小さな自然と静かに向き合う中で培われた「守る」という感覚を、これからも仕事の中で生かしながら、地域の未来を確実に支えていきたいと考えています。

インフラの維持管理と盆栽の管理は共通項がある

歴史よもやま話　277

信長の首塚

和泉　清

信長廟

「本能寺の変」で自害した織田信長の遺骸（首）は、明智光秀が本能寺の焼け跡を隈なく探させたが見つからなかったという。

静岡新聞連載の歴史小説「未だ本能寺にあり」は、豊臣秀吉の命を受け「信長の首は何処へいったのか」を追及し続けた駒井八郎右衛門重勝を通して真相を明らかにしようと試みた今村翔吾の歴史ミステリーであり、私も連載当初から毎朝が待ち遠しい思いで熱読した一人であった。

信長の墓は京都市寺町の浄土宗阿弥陀寺にあり、織田信長公本廟として知られている。そこには本能寺の変で戦死した嫡男の信忠や小姓の森蘭丸の墓もあり、毎年６月２日の信長忌には法要が営まれているのだ。17世紀後半に書かれた黒川道祐の「雍州府志」には「信長公が死に本能寺が焼失した後、清玉上人（阿弥陀寺住職）が焼け跡に残っていた信長の衣服の燃え残りを見つけ、その周辺の骨灰を持ち帰って葬った」との記述が残る。

ところが、富士宮市西山にある日蓮宗の古刹、西山本門寺には「信長の首塚」が存在するのだ。古くから地元では「本堂奥の大柊の下に信長の首が埋められている」という伝承があった。その根拠となったのは第18代住職日順上人自筆の過去帳に残る「天正十年六月、惣見院信長、為明智被誅」の記述であり、以来寺では歴代上人の口伝で信長公の供養をしてきた。

そもそも信長の首は、どのような経緯で京から遠く離れた富士山麓の寺に運ばれてきたのであろうか。本能寺の変の前夜、囲碁が好きだった信長は囲碁の名人である本院坊算砂（日蓮宗寂光寺本因坊塔主・日海上人）と鹿塩利賢に対局をさせ、それを見物しながら夜更かしをしていたという。そして翌天正10（1582）年6月2日未明、光秀軍に包囲された信長は「是非に及ばず。今はこれまで、光秀に余の首を渡してはならぬ」と厳命して自害したという。

信長の死を見届けた本因坊算砂は、信長の供をしていた原志摩守宗安に信長の首を託し、密かに西山本門寺へ葬るよう指示した。算砂と志摩守は旧知の仲であり、二人にとってこの寺は馴染み深いものであった。それは、かつて算砂が西山本門寺の境内に本因坊という坊舎を営んで住んでいたことや、彼が志摩守の子日順を弟子とし、後に第18代住職にしている事からも明らかである。

原志摩守宗安は、信長と父胤重、兄清安（二人とも信長の「馬廻り」を務め本能寺で戦死）の三つの首を持って、辛うじて本能寺を脱出し富士山麓の寺へたどり着いた。そして西山本門寺の本堂裏手に三つの首を埋めたことを「原家記」に書き残している。

信長の首が埋葬された場所には目印として柊の木が植えられたという。現在その近くに信長廟が建てられ、参道の傍らには信長から数えて17代目に当たる織田信成（プロ・フィギュアスケーター）が訪れた時に植えた柊の木がある。

信長が宿所とし終焉の場所となった本能寺、信長の首を運び出すことを志摩守に指示した算砂（日海上人）の寺である寂光寺、そして信長の首塚がある西山本門寺が何れも日蓮宗の寺であったことは偶然ではなかった事が分かる。

ならば、数ある日蓮宗の寺の中で何故、富士山麓の寺が埋葬地に選ばれたのであろうか。「信長公記」によると信長は、武田氏滅亡後の天正10年3月10日に安土城を出発。諏訪・甲府の戦後処理を終え、4月21日に安土に帰陣している。

その行程の中で帰途は盟友・徳川家康の案内で現在の朝霧高原を通過、源頼朝の「富士の巻狩り」の旧跡を訪ね、武田氏討伐の成功と雄大な富士山を初めて見た嬉しさからか、小姓らと馬を走らせて楽しんだことが記されている。

その日から2か月にも満たない6月2日、本能寺の変で信長は落命した。明智軍に囲まれ死を覚悟した信長が、遺命として「余の首塚を富士の麓に祀るべし」と命じた可能性も十分ありうるのではないだろうか。西山本門寺では毎年「信長公黄葉まつり」が盛大に催されている。

生コンの御用命は下記の会社をご利用下さい

熱海生コンクリート販売協同組合
事務所　伊東市吉田字長畑道上1026-37
TEL（0557）44-4411　FAX（0557）44-4412
E-mail：ataminamaconkumiai@joy.ocn.ne.jp

◈組合員

熱海地区
伊東協同生コン株式会社 熱海工場
熱海市熱海1993
TEL（0557）52-6082　FAX（0557）86-1117

稲村生コンクリート株式会社
熱海市上多賀457番地の1
TEL（0557）68-1621　FAX（0557）68-0418

伊東地区
伊東協同生コン株式会社
伊東市吉田1026-37
TEL（0557）45-1366　FAX（0557）45-0360

株式会社富士宇部 東伊豆工場
賀茂郡東伊豆町稲取2230-1
TEL（0557）95-3168　FAX（0557）95-1988

鉄骨のご用命は当社へ
国土交通大臣認定工場Ｍグレード
株式会社　**大城工業**
代表取締役　大城　英一
住所　伊豆の国市神島49-1　〒410－2325
TEL 0558（76）－3299
FAX 0558（76）－5007

静岡県東部・伊豆で展開する一流の重機土工集団
KURATA **倉田工業株式会社**
〒411-0853 静岡県三島市大社町14－５
TEL.055-973-2200（代）
FAX.055-973-2202
倉田工業　三島　検索
http://kuratakogyo.com/

電気設備工事　設計施工

株式会社ダイナナ
代表取締役社長　内田　聡
本社　三島市梅名３７１－２
電話〈055〉977―3511㈹
函南営業所・厚木支店

大野電機工業株式会社
代表取締役　日原　誠
三島市南二日町24-27　電話〈055〉975―1040㈹

近和（きんわ）電業株式会社
代表取締役　今瀬　誠
支社　静岡県三島市平成台８番地
ＴＥＬ〈055〉986―5211㈹
静岡本社・東京支社

続・地場建設業（建設業協会）の役割

（一社）三島建設業協会副会長
土屋 龍太郎

令和4年9月号の三建だよりに、全国建設業協会は「国土形成」・「地域危機管理」・「地域基幹」・「人材育成」が建設産業の役割だとしていると、紹介しました。

地場建設業者を会員とする三島建設業協会は、その役割を具現化する活動を展開して参りましたが、自然災害に対する対応の多様化、会員数の大幅な減少、働き方改革と生産性向上等々様々な観点から見直しを迫られておりますので、その対応の一環を紹介させて戴きます。

■組織力強化、影響力拡大

令和元年東日本台風（箱根西麓・函南地区が集中的に被災）への対応に関連して、三島建設業協会の組織率が懸念されたことを受けて、組織力の強化・新規会員確保と次世代会員の連携強化がスタートしました。

・みらい創造特別委員会設置、新規会員の加入促進（令和2年10月2日、理事会）

会員企業の若き後継者等が、交流・懇談を通じて、業界や地域の未来を切り開く施策を検討実施することを目的とする「みらい創造特別委員会」が発足しました。

また、入会の阻害要因とされる入会金を減額しましたが、実績は5社増に留まりました。

・災害対応力の強化（令和3年10月4日、理事会）

会員企業52社に対して非会員企業89社という現況を踏まえて、管内5市1町の建設業団体の災害対応力向上支援することと、土木・災害対策委員を軸に展開してきた三建メール網を全会員に拡充することで災害対応力の強化を図ることを決定しました。

・災害応急対応の協力に関する覚書（令和6年5月22日）

令和5年3月、函南町に会員が不在となったこと（函南町が災害対応空白地域化）を受けて、沼津土木事務所と三島建設業協会及び田方地区建設業協同組合間で、「災害時における応急対策業務に関する覚書」を締結しました。

かねてより実施してきた管内市町ごとの建設業団体との連携を、より強化することを目的に、三建と「三島市建設事業協同組合、伊豆の国市建設業協会、伊豆市建設業組合、伊東建設業組合、協同組合熱海建設業協会」間で、災害応急対応に関する情報の共有と訓練等への積極参加と併せて、「C－DEST」のロゴマークの使用に合意しました。

・三建メール網に管内の建設業団体を登録（令和7年10月6日、理事会）

三建メール網に管内の建設業団体の災害専用アドレスの登録を可能にしたことにより、将来的には三建宛の緊急メールを、5市1町の建設業者とその代表者と実務者が受信可能となり、災害時の情報力が飛躍的に向上します。現在は伊豆の国市建設業協会のみ登録済。

・伊豆の防災に関する情報交換会開催（令和7年10月27日）伊豆市建設業組合と連携

災害応急対策に関する覚書に則り、三建が持つ災害対応に関する情報を、伊豆市建設業組合関係と共有することで、伊豆地域の災害対応力の向上を図った。

伊豆市・沼津土木事務所修善寺支所管内は、内陸から沼岸部へ向かう緊急輸送路（峠道）を複数抱えながら、協定業者（三建会員）の対応力は質・量共に減少傾向にあるなかで、伊豆市建設業組合所属の非会員との連携により対応力の向上を目指す取組です。

沼津河川国道事務所、県東部地域局、沼津土木事務所修善寺支所、伊豆市（副市長以下当局職員と市議会議員有志）を招いて、「伊豆市土肥地区の地域啓開」と「三島建設業協会の災害対応」に関する情報を共有し、災害対応の現実と建設企業の存続の必要性についての認識を共有した。

■内部体制変革、委員会再編

令和7年3月の臨時総会において、総務委員会から提出された「委員会編成に係る提案」が採択されたことを受けて、委員長会議が開催され、令和8年度に向けた委員会編成が議論され、概ねの合意に至りました。その協議の経過を踏まえて、建設産業の役割とされる4項目の具現化と委員会の分掌を取り纏めました。

・「国土形成」即ち、社会基盤整備ですが、ベテランの技術者・技能者の大量退職期に直面し、新規入職者の確保と併せて、入職済の若年者への技術・技能の承継が喫緊の課題です。これらの課題克服は、業界の構造改革と同義であり、労働時間の短縮、雇用状況の改善、福利の充実等は、生産性の向上による利益確保が大前提であることから、ITの活用に留まらず、仕事のやり方を変えるDXを推進します。

以上の課題については、常設委員会となったみらい創造委員会と土木・災害対策委員会が連携して担当します。尚、高校生のインターンシップを担当していた労務委員会は廃止しました。

技術・技能の承継については、工事の受発注、更には設計に携わる若年者が共通して、現場離れの傾向が顕著であることから、発注者との技術支援を通じて、或いは研修会・現場見学会の共同開催等を、土木・災害対策委員会と土木施工管理技士会が担当します。

・「地域危機管理」即ち、災害対応ですが、社会基盤を管理する行政との連携をベースとする活動であることから、基盤整備と災害対応は表裏一体との認識に立って、受発注者間の相互理解を推進し、他の防災機関関係者を含めた顔の見える関係の構築を目指します。

三建が災害応急対策業務の覚書等により取り組んでいる市町単位の建設業団体の機能向上は、即ち、災害対応の当事者である市町の災害対応力の向上に大きく貢献します。

また、近年は「生命」を守る活動に加えて「暮らし」を支える活動に対する期待が高まっています。社会基盤の被害軽減や機能回復は、国・県と市町との協働ですが、住民の暮らしは、市町の建設系以外のセクションとの協働となることから、より緊密な関係構築が必要です。従前の土木・災害対策委員会に加えて、住民との協働を担当する企画委員会が新たな活動として、市町単位の地域イベント等の開催を通じた顔の見える関係構築に努めます。

・「地域基幹」即ち、地域の異業種連携の主導ですが、人口減少・過疎高齢化に喘ぐ伊豆地域の事業者を取り巻く環境は大変厳しい状況下にあり、自らの事業の存続に手いっぱい、周りに目が届かない、連携する仲間もいない状況であり、後継者は、何れも孤軍奮闘しています。

そんななか、公共事業に携わる建設企業は、「基盤整備と災害対応」に発注者と連携して取り組んでおり、発災後72時間で何ができるかのシミュレーションでは、個々の企業対応ではなく、建設業団体として一体となり、発注者と如何に連携するかが大きなテーマであります。所謂、事業活動を通じた官民連携を実践しています。

そんな関係から、地域の課題克服、地域振興に向けた活動においては、建設業者が主導する構図となり、建設業が地域基幹産業と言われる由縁です。

・「人材育成」即ち、地域の将来を支える若年者教育ですが、県交通基盤部主導のドボクラブの出前講座が先行していますが、三建のみらい創造委員会の活動はそれを上回る熱意と発想をベースとした活動です。

地元で生まれ育った若者が、この地で就労し暮らし続けることが、過疎高齢化への特効薬（若い人が地元に残る）です。建設業はものづくりを掲げ、この地域を災害から守る技術を持っていることを訴え、自らの進路選択に影響を与えようとしています。

消防機関・警察機関と連携した実践的な訓練

「C-DEST」のビブスを着用し訓練に臨む

インターンシップで建設業の役割を伝える

優良産廃処理業者認定制度　静岡県知事認定取得第1号
◆優良認定制度は、優良な産廃処理業者への処理委託を推進することによって排出事業者の環境への配慮を促進する目的で定められています。
エコアクション21
全国産業廃棄物連合会『優良事業所』表彰
電子マニフェスト即対応（JWNET,e-reverse,e-マニフェスト）　工場見学随時受付
SEKI TRANSYS セキトランスシステム
HP http://www.sekitransys.co.jp
本 社／〒411-0933 静岡県駿東郡長泉町納米里515ー1　TEL〈055〉988-6868
廃棄物処理
ゼロエミ処理対応
破砕・圧縮・切断・溶融固化
サーマルリサイクル施設
焼却処分
クレーン作業
キッチン・バスのパートナー アップフォーム®の
テクパル
静岡県駿東郡長泉町竹原383-6
TEL055-972-2560
URL：https://tecpal.jp
My own kitchen.
Only the pure in heart can make a good soup.
kitchen & bath TECPAL
タッチレス方式トイレットペーパーホルダー
サワラナイデ～
感染予防！接触回避！
新日常品®
つえタッチ
いちばんやさしい杖立て
病院介護施設などでの椅子待ちに最適

ヌマカン株式会社
代表取締役社長　伊藤 柳一
沼津支店
〒410-0065　静岡県沼津市花園町7-10
電話　０５５－９２２－５５１７（代）
静岡支店
〒422-8027　静岡県静岡市駿河区豊田2丁目8-15
電話　０５４－２８１－４６７８（代）
伊豆営業所
〒410-2317　静岡県伊豆の国市守木795-3
電話　０５５８－７６－５８８１（代）
https://www.numakan.co.jp

営業品目
砕石・割栗石
間知石・埋土工事
立岩石材㈱　伊豆市船原（0558）８７－０８３１
二葉建設㈱　御殿場市新橋（0550）８２－２０８７
伊豆地区採石業災害防止協議会

JIS工場からより良い製品をお届けします。
コンクリート製品の御用命の筋は
下記の会社へ是非共お願い致します。
（営業品目）
土木用間知ブロック・道路用製品他
土屋建材株式会社
菅尾工業株式会社

SHINKO
土木／解体工事・不動産事業
工事部：伊東市吉田920-40　TEL0557-51-4362
本　社：伊東市富戸1091-7　TEL0557-51-4755
産業廃棄物運搬・処分
処分場：伊東市富戸1285-17　TEL0557-51-4722
㈱新光重機土木

三建めぐり

花を求める

TOCCO（トッコ）（三島市）

長倉 知子（ながくら ともこ）さん

～ 古着を通じて、人の気持ちを明るく前向きにしたい ～

古着の販売を始めて、約５カ月。固定の店舗を持たず、イベントなどへの出店や、飲食店などで営業時間外に間借りする形で展開している。

古着と言えば、海外から仕入れて販売するスタイルが一般的だが、メインで扱っているのは日本の古着。「比較的、安価で手に入るので低価格で販売している」のが特徴の一つで、40歳代から60歳代が主な顧客層だ。仕入れ時には「自分が着たい服」や「リピーターの方に似合いそうな服」などのイメージを膨らませている。

仕事を通じて充実した日々を送る

以前、三島市広小路町でカフェ「ＴＯＣＣＯ」を営み、多くの人々から親しまれていた。自身を巡る環境が変化したことから心機一転、店を閉め、古着販売の世界に飛び込んだ。

接客の際には、奇抜なファッションを求めるのではなく「少し気分が前向きになる古着」を意識している。顧客から「明るめの服にチャレンジしてみて開放的な気分となり、心も明るくなりました」など感謝の気持ちを寄せられることに、幸せを感じている。「『きっと似合うだろう』と思った古着を提案し、実際にお召しになって目の前で喜ばれた時が最もうれしい瞬間」と声を弾ませる。

職業柄、古いものを大切にしつつ少し手を加えることで、今の時代と融合させることに関心がある。「建設業でも古い構造物を適切にマネジメントすることで、長寿命化すると聞いている。古着の世界観と通じるものがあるのでは」と共通項を挙げる。

沼津市出身、函南町在住。

フランス事情㉟

外交戦略が生み出した「フランス料理」信奉

TELEX

三建常任相談役　小野　徹

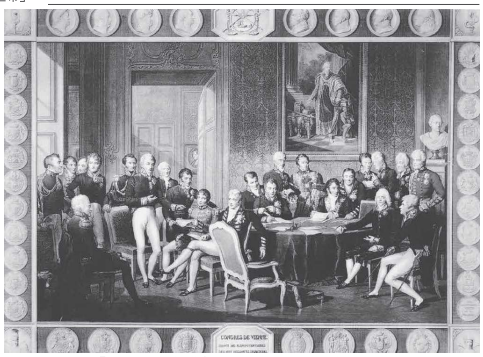
ロシア遠征に失敗したナポレオンは、その後、ライプツィヒの大戦で、敗北し、皇帝を退位させられ、1814年5月、エルバ島に流刑された。

フランスでは、ただちにルイ18世が即位して王政に復古し、一連のフランス革命から始まり、ナポレオンによって蹂躙されたヨーロッパの政治秩序を再建し、領土や、賠償金問題を解決することを目的に「ウィーン会議」が開催されたが、この国際会議は、「会議は踊る、されど進まず」と風刺されたように、各国の利害が対立し、初めから難航していた。

ダヴィット画の「ナポレオン皇帝」

この情報を得たナポレオンが、エルバ島脱出に向けて、王政復古下では絶対的なタブーとされていた、ナポレオンの同調者との極秘連絡役に、何も知らずに引きずり込まれてしまった、マルセイユの船乗りを主人公にした冒険譚が、アレクサンル・デュマ原作の『モンテ・クリスト伯（巌窟王）』である。

物語のあらすじは、――マルセイユの船乗りのエドモン・ダンテスは、無学ではあるものの、純朴な船乗りの青年だったが、恋しく思っていたメルセデスを、ライバルのダンテスに奪われて嫉妬に狂った漁師のフェルナンと、同じく船長への昇格を先に越されて妬みをもった会計士のダングラールと、父親がナポレオンの協力者であることの露見を恐れた、若き検事代理のヴィルフォールによって、ナポレオンに加担した罪をでっちあげられ、「誰ひとり生きて出た者はいない」マルセイユ沖のイフ島の牢獄に閉じ込めてしまう。



「ウイーン会議」バステッド・イザベイ画

わけもわからず投獄され、絶望していたダンテスだが、脱獄を企てていたファリア司祭に勉学・剣術を学び、復讐心も燃えたぎらせていたところ、病で亡くなった司祭になりすまして脱獄に成功し、司祭がつきとめておいた巨万の富を元手に、「モンテ・クリスト伯爵」と名乗り、ルイ・フィリップ（オルレアン家）治世下のパリを舞台に、自分を陥れた3人への復讐を果たしていく……。

仕大な復讐劇の「モンテ・クリスト伯」

物語の題材にされた実際のナポレオンは、1815年2月、わずかな手勢を率いてエルバ島を脱出し、パリに戻って「百日天下」を築いたものの、復帰を知ったヨーロッパ諸国は、ウィーン会議を中断して、すぐさま対仏大同盟を再結成し、ワーテルローの戦いでナポレオンを破って、セントヘレナ島へ流刑している。

そもそも「ウィーン会議」は、オーストリアのメッテルニヒ外相が主催し、英・露・独などの各国代表を始め、敗戦国のフランスも参加していて、意見のとりまとめに難航し、皮肉なことにナポレオンの「エルバ島脱出」が、議定書（合議書）」の取りまとめを早めたのだった。

フランスが、外務大臣タレーランの巧みな外交手腕で、領土を始めとする権益を守ったことが、特筆される。

もともと「ウィーン会議」は、「会議は踊る」の言葉通り、様々な思惑を秘めた各国代表が「舞踏会」などで懇親を深める一方で、議論の方は一向に進まなかったが、この間、フランスの名門貴族の出身で、食通のタレーラン外相は、たびたび豪華な晩餐会を主催しては、各国の王侯・貴族、大使をもてなし、懐柔！に努めていた。

そのタレーランのもとで、腕を振るっていたのが、アントナン・カレームであった。

カレームは、アンシャン・レジーム（旧体制）崩壊後、街角に流出した宮廷料理人を師として修業を重ねているうちに、タレーランに見いだされ、ナポレオン！など、新たなパリの上流社会の料理を請け負っては、タレーランの「食卓外交」を担っていたが、ウィーンで出されたカレームの「フランス料理」は、晩餐会出席者の評判をさらい、ウィーン会議後、英・露・墺の王室などは、自国にカレームを招待して、「敗戦国・フランス！」の料理術の教えを請うとともに、それぞれの宮廷や居城に、こぞってフランス人の料理人を召し抱えるようになったのだった。

アントナン・カレーム

タレーラン外相

――つまりは、世界中で、今日に至る、「賓客をもてなすには、フランス料理！」という規範？は、タレーランというしたたかな外交官と、味覚上も、美的にも優れたフランスの宮廷料理を、内外に誇示するとともに、その料理技術を体系づけ、再現可能なレシピとして著わした、「シェフの帝王」カレームから始まったのだった。

そういえば、確か、東洋にも――「和食」という「世界遺産」を誇りながら、「諸外国の賓客をもてなすには、フランス料理！」となっている卑小国がありませんでしたっけ……?。

近未来型
鉄骨加工工場
近藤鋼材株式会社
沼津営業所　沼津市沼北町2-2-16　TEL 055-925-1900
静岡営業所　静岡市駿河区丸子6280-1　TEL 054-256-1200
渡邊鐵工所　藤枝市善左衛門1471-12　TEL 054-634-3211

●JIS工場からより良い製品をお届け致します。
静岡県東部生コンクリート販売協同組合
事務所　沼津市大岡517-4　鈴福ビル2F
電話〈055〉955-6600　FAX〈055〉955-6601
■組合員
㈱イワタ沼津工場
東宏生コンクリート工業株式会社
三島生コン㈱
㈲高田建材
小野建設株式会社 修善寺生コン工場
新スルガ生コン㈱
二葉建設㈱生コン部
静岡生コン㈱
裾野生コン有限責任事業組合
㈱タカムラ生コン
㈱古藤田生コン
㈱広川生コン
伊豆中央コンクリート有限責任事業組合

水と空気　人を育む環境を求めて
株式会社 ワールドエンジニアリング
本　社／〒411-0816　静岡県三島市梅名371-2　TEL.055-984-1244　FAX.055-984-3154
横浜支店／〒244-0801　神奈川県横浜市戸塚区品濃町542-6 東戸塚東口ビル3F　TEL.045-523-7892　FAX.045-523-7893
厚木支店／〒243-0815　神奈川県厚木市妻田西1-25-14　TEL.046-297-7622　FAX.046-297-7633
建設業許可番号／国土交通大臣許可（特）第22830号　管工事業
（般）第22830号　電気工事業

創業100年・最新技術・末永いサービス
省エネと生活環境の向上を提供
空調・給水・給湯・衛生・上下水道・防災設備・設計・施工
KATANO
片野設備株式会社
代表取締役社長　片野彰一
ISO 9001 認証取得
〒411-0035 静岡県三島市大宮町3-3-12　TEL 055-971-2205㈹　FAX 055-973-5246
E-mail : info@katanosetubi.co.jp　URL http://www.katanosetubi.co.jp